

2020年10月、好生館のホームページを全面刷新しました！

佐賀県医療センター
好生館

- ▶ 好生館について
- ▶ ご来館の皆さまへ
- ▶ 診療科・部門
- ▶ 医療機関の皆さまへ
- ▶ お知らせ・採用情報
- ▶ リクルート

『来館者トリアージ』実施中



時代は DX ⇒ HPでも積極的に情報発信！

佐賀県医療センター
好生館

- ▶ 好生館について
- ▶ ご来館の皆さまへ
- ▶ 診療科・部門
- ▶ 医療機関の皆さまへ
- ▶ お知らせ・採用情報
- ▶ リクルート

『来館者トリアージ』実施中

『面会禁止』のお知らせ



新ホームページでは、リクルートサイトを設定しました！

++ リクルートサイト

▶ 採用情報 ▶ **初期臨床研修医** ▶ 専攻医 ▶ 看護部 ▶ その他の職種 ▶ 福利厚生

臨床研修医

Intern

総合教育センター長からのメッセージ

Message

好生館の初期臨床研修医のリクルートサイトへようこそ！

好生館では、やる気のある初期臨床研修医を募集しています。以前は、自虐的に「九州一の穴場研修病院」としてリクルート活動をしていましたが、館内関係者のご尽力により、そして何より高いモチベーションをもった初期臨床研修医の諸君が集ってくれた結果、ここ4年間は幸いにもフルマッチングが続いています。

研修体験記(今では研修医ブログという名称に代わっています)を読んでいただければ実感されると思いますが、好生館には佐賀大学だけでなく、九州大学、久留米大学、宮崎大学、産業医科大学、筑波大学といった複数の大学出身者がいて、お互い刺激になっているようです。みなさんは採用後、「医局2」という初期臨床研修医だけの大部屋で1~2年、一緒に過ごすことになります(各人のデスクには、電子カルテがいつでも利用できるよう、1台ずつ、デスクトップパソコンが支給されています)。

医学部卒業後、最初に配属された病院でともに働く同僚は、文字どおり、一生付き合っていく(かもしれない)大切な同志であり、良い意味で一生のライバルともいえます。

特に好生館のような市中病院は、上述のように様々な出身大学の卒業生が集まってくるため、その連帯感には強いものがあります。

互いに切磋琢磨し、助け合い励ましあって、ときには愚痴も言い合って、充実した研修生活を送ってくださいね！

(2020.10.13 教育センター長 藤田 尚宏)

人を知る

Person

初期臨床研修医 尾崎 雄一

初期臨床研修医 谷口 弦太郎

初期臨床研修医 小金丸 三璃



初期臨床研修医 尾崎 雄一
First medical intern



診察室

初期臨床研修医 谷口 弦太郎
First medical intern



初期臨床研修医 小金丸 三璃
First medical intern

TOPIC 01

好生館を選んだ理由

好生館での研修の魅力はズバリ充実した教育体制とそれを実践できる環境が整っていることです。好生館では定期的な研修医向けの勉強会が開催されており、日々の業務では研修医は最前線として活躍します。勉強会や教科書で学んだ事を日々の臨床で活かすことで、習得で終わることなく体得することができます。コミディカルの方々も研修医の指導に協力的で、病院全体で研修医を育てようという風潮があります。つい3月までは学生だった自分達が問診や検査オーダーなど最初は慣れないことばかりですが、指導医はもちろん、2年次の頼もしい先輩研修医の指導を受けながら診療に臨むことができます。



TOPIC 02

自分にとってのやりがい

臨床研修Q&A ⇒ 現役研修医が答える！（マイナビ）

総合教育研修センター

臨床研修Q&A

臨床研修でよく質問される事項について

募集について

2023年5月版も 近日公開！

2022年7月、“マイナビ・オンライン”のやり取り(医学生の質問に答える!)を30分の動画(YouTube)に収めました！

臨床研修Q&A

2022年7月23日に行われた「全国マイナビ・オンライン臨床研修プログラム説明会」における好生館サポーターの動画を、以下にプロモーション・ビデオとして提供を開始しました。約30分のYouTube版ビデオは、2本立てとなっています。参加者は、吉良 裕希先生（基幹型1年次）、島内 明子先生（基幹型1年次）、加峯 圭佑先生（基幹型2年次）です。ご協力、ありがとうございました！前半は医師臨床研修プログラム責任者による研修内容の概要説明、後半は医学生からの質問に対して現役初期臨床研修医3名が答える・・・という構成となっています。

研修医最新情報

病院見学のご案内

初期臨床研修プログラム



HPの人気コーナー ⇒ 研修医ブログ (研修体験記)



初期臨床研修プログラム



病院見学のご案内



研修医ブログ



研修医勉強会

2022年度



- ▶ 2023年01月 大川 惟
- ▶ 2023年01月 新藤 優里
- ▶ 2023年01月 古川 くるみ
- ▶ 2023年01月 平野 貴之
- ▶ 2022年12月 三根 大樹
- ▶ 2022年12月 加峯 圭佑
- ▶ 2022年12月 池邊 結

先輩研修医たちの
本音が聞けますヨ！

臨床研修をするなら、“九州一の穴場病院” 好生館で！

■ 先輩研修医からの病院紹介と、この病院を選んだ理由 最も評価が高かった記事

医師として働き始める最初の病院を選ぶ基準は何でしょう。私は、父に「働ける医師になれ。若いうちは、望んで忙しい病院に行った方がいい。」と勧められたのが、好生館を選んだきっかけでした。見学に行った際に、先輩方に「この病院は、九州の穴場だよ！」と言われ、好生館を非常によく表していると思いました。これだけ研修医を1人の医師として尊重してくれて、たくさんの手技と症例を経験できて、自覚と責任感を育ててくれる病院は少ないと思います。しかしながら、割と知名度が低いので、他の人気な研修病院より競争率が低いと思います。

よく見学に来る学生さんから質問があるのは、総合当直の制度です。救急車以外の休日・夜間外来の患者さんは、研修医が診察します。まず自分が対峙することで、自然と意欲と責任感が湧いて、それがやりがいにも繋がります。その他の病棟業務も、研修医が担当医として治療方針を立てることができます。もちろん指導医に相談することは可能なので、心配しなくても大丈夫です。

好生館の利点は、指導医の先生方が研修医を熱心に指導してくださること、看護師さんや検査技師や放射線技師などのコメディカルスタッフがとても協力的であること、患者さんの人柄がいいこと(地域性だと思います)などがあげられると思います。私が実際に研修してみて感じたこととしては、モチベーションが高い人が集まってきているということです。研修医も指導医も「なんとなく働いている」という人は一人もいません。目標とライバルに囲まれて、切磋琢磨しながら研修できるのは人生の宝物になると思います。百聞は一見にしかず。まずは見学にいらしてくださいね。

好生館での研修 ⇒先輩たちの研修体験記から

2018年1月 前田 裕美子



初期臨床研修医2年目(基幹型)の前田 裕美子です。

私は、大学6年生で研修病院を決める時期には、はっきりとは将来進みたい診療科を決めきれていませんでした。診療科が多く、比較的自由に研修のカリキュラムを組める病院がいいな、と思っていましたが、それを売りしている研修病院は数多くあり、迷いに迷っていました。

焦った6年生の夏に、大学の先輩方に勧められたこともあり、とりあえず見てみようと思って、好生館の病院見学を申し込みました。

病院見学では、カリキュラムの説明や、いくつかの診療科を実際に見学する時間があります。しかし私が見学の中で一番印象に

残ったのは、職員のみなさんがすれ違うときに笑顔で気持ちのよい挨拶をされていたことでした。この病院なら、忙しい研修で辛いことがあっても、前向きな気持ちで頑張ることができるのではないかと、思いました。

実際に働いてみると、最初は慣れないことばかりで大変でした。カルテ記事一つ書くのにも長い時間がかかり、採血するのにも緊張して手が震えて、情けない気持ちになることも多かった。研修医の同期が来るころまでには、いくつかの患者を担当することもありました。

しかし、先生方の熱心な指導、スタッフの方々からの励ましのおかげで、私も少しずつ成長することができたかなと思います。

研修医の仲間という時間は長く、楽しいことも辛いことも分かち合い、お互いに刺激し合える大切な存在となりました。

真面目な話ばかりになってしまったので、研修以外の生活の話も少しします。

私は大学時代には福岡市内でアーバンライフ?を謳歌していたので、佐賀県は田舎だし暮らすのが大変そう...と、思っていました。しかし実際に住んでみると、日本最大規模を誇るゆめタウンには車で20分で行けるし、院内には夜12時まで開いているローソンがあるし、と意外と便利に楽しく暮らしています。

院内の窓から見る景色はほぼ田んぼですが、季節によって表情を変える美しい風景です。患者さんとのんびり外を眺めていると、とても心が安らぎます。パルーンフェスタの時期にはたたくさんのパルーンが西側の窓から見えて、インスタ映える写真が撮れました。

さらに、佐賀は佐賀牛をはじめとして食べ物もとても美味しいです。美味しいパフェ屋さんも多くて驚きました。研修を終える前に、佐賀グルメをもっと堪能しなければ、と思っている今日この頃です。運動もしなきゃなあど頭ではわかっているのですが...

最後になりますが、研修をしていく中で、女性の様々な悩みに寄り添える産婦人科医になりたいと思うようになりました。目標に向かって、これからも一つ一つのことに丁寧に取り組んでいきたいと思っています。

最後まで読んでいただきありがとうございます。

是非、見学にいらっしやってください。

2019年10月 山口 修輝



研修医2年目の山口 修輝と申します。乱文ではありますが、研修病院を選ぶ上で少しでも参考にになれば幸いです。

好生館の先生方は、自分が迷った時にはいつでも優しく教えていただける方ばかりです。自分が間違った時にも、改善点を明確かつ丁寧に指導いただけるため、本当に勉強になります。看護師さんや技師さん、薬剤師さんなどのメディカルスタッフの方々には、急なオーダーや処方にも関わらず迅速に対応していただけるため、いつも助けられています。また、研修医の数も多く、お互いにその日にあった出来事話すのはとてもいい刺激になります。

さらに好生館では、自分が意欲的に取り組めば、どこまでも深い知識や経験を得られる環境が整っています。日々の輸液や処方は、まず自分で考え、上級医と相談することが多いです。経験できる手技も多岐にわたり、挿管、CV挿入などの基本処置にとどまらず、内科では内視鏡・気管支鏡検査やカテーテル操作を経験できましたし、外科では執刀の機会もいただけました。研修という立場でありながらも、私たちを一人の医師として扱っていただける場面が多いように感じ、日々充実感を覚えながら仕事できています。

しかし、そのことは裏を返せば、大きな責任を伴うことを意味します。時には、指導医が身近にいない状況で、患者さんの命運を左右するような決断を迫られることもあり、好生館で研修をすれば、『決断力』がとにかく鍛えられます。その最たるものが総合当直(ER時間外診療)と病棟からのCallです。前者に関しては、他の方の体験記でも綴られているため、私は後者に関して書こうと思います。

夜間や休日に病棟で何かあれば、多くの場合、ファーストコールは研修医にかかってきます。その内容としては、チューブが抜けた・患者さんが転倒した、といったトラブル系から、血圧が低い・激しい腹痛を訴えている、などの場合によっては緊急の処置を要するものまで、多岐に渡ります。どんな検査・初期対応が必要か、またどのように上級医につなげるかの判断がすべて自分に委ねられます。その責任は実に重く、常に迷い、そして怖さを感じます。

最初のうちはもちろん、一から十まで上級医の指示を仰いでいました。しかし、自分がうまく初期対応をして、スムーズに上級医につなぎ、患者さんが事なきを得る場面もあります。自分が経験・勉強したことが患者さんに還元できた瞬間であり、この上ない喜びを感じるとともに、医師になってよかったと感じる瞬間でもあります。

もちろん、毎日このようなことがあるわけではないですが、個人的には日々の研修以上に、こういった経験の方が、一生忘れない記憶として残った気がします。私は、このような素晴らしい環境で研修できていることを幸せに感じるとともに、誇りにも思っています。皆さんもここで研修すれば、きっとかけがえのない経験ができますよ。

最後に、私が医学部6年の時、マッチングで好生館に決まったことを上級医に話したところ、「いい病院を選んだね。好生館で研修した医者は一味違う。」と言われました。

充実した研修生活を送りたいという方は、是非一度見学にいらして下さい。

研修内容紹介 ⇒ 研修医ブログ(リニューアル後)

研修医ブログ Blog

▶ 2021年01月 原 優実



基幹型研修医2年目の原 優実と申します。

好生館の病院としての特色に関しては他の先生方のわかりやすい説明があるので、私からは好生館での研修生活について、以下の4つを皆さんと共有できればと思います。

① 研修医医局

好生館では、初期臨床研修医だけの医局が存在します。自分のデスクに自分専用の電子カルテ端末が設備されており、カルテ業務や調べ物などに集中しやすい環境が整っています。研修医同士でわからないことなど相談しやすいあたたかい雰囲気であり、志の高い先輩・同期・後輩の姿には2年間常に刺激を受けてきました。イベント事を皆で楽しんだり、時に愚痴などをこぼし合いながら夜遅くまでカルテに向かった時間も、今となっては素敵な思い出です。

② 研修医宿舎

家賃が安いのにとても綺麗で、生活するのに申し分ないくらいの広さがあります。医局まで徒歩30秒、病棟まで徒歩2分(※科によってばらつきあり)と立地条件は最高であり、朝起きるのが少し苦手な人にもおすすめです。また院内にコンビニや職員食堂があるため、どんなに疲れていても食事に困ることはありません。病院敷地内ではありますが、個人的にon-offはつきやすい空間であるように感じます。

③ 研修医勉強会

月2,3回開催され、教育センターの藤田先生を始め、各診療科の先生方からありがたいレクチャーを受けることができます。時には実習形式の講義で手技を身につける場も提供されます。また、研修医同士の発表の機会もあり、各々の学んだことや興味がある分野について皆で共有でき、発表経験を積むといった意味でも有意義な場となっています。

④ 研修医飲み

月1回の研修医飲み会も存在します。今年度は計33名と初期臨床研修医の数は比較的多く、出身大学はさまざまですが、医局の存在もあり、他病院と比べて研修医同士の距離は近いように感じられます。特にこの飲み会で普段の仕事では話せないようなことを話したり、学年問わず仲良くなれる環境は充実していると思います。(残念ながら2020年度はコロナ禍で開催できず...落ち着き次第再び開催されるとよいですね!)

当直でのwalk in外来、病棟のon call対応など、決して楽な日々ばかりではありませんが、研修医はもちろん、各科の先生方、医療スタッフの方々、病院職員の方々のあたたかい支えの中、彩りのある毎日を過ごしています。私がもう一度研修生活を送るとしても、研修先として迷わず好生館を選ぶでしょう。

今、研修先を迷っている方の背中を少しでも押すことができれば幸いです。

長文・乱文を最後までお読みいただき、ありがとうございました。

▶ 2021年11月 永島 瑛帆

永島 瑛帆

トップページ > 初期臨床研修医 > 研修医ブログ > 永島 瑛帆



初期臨床研修医2年目の永島 瑛帆と申します。

私は基幹型プログラムで2年間、佐賀県医療センター好生館で研修させていただきました。

佐賀県医療センター好生館は450床を有する佐賀県の3次医療機関です。ほとんど全ての科が揃っており、外科や内科いずれの科を志望している方でも研修病院としておすすめです。

特に、好生館の研修プログラムの特徴として、内科を1ヶ月単位でローテートすることができます。学生の頃は、「1ヶ月では慣れるだけで終わってしまうのではないかと不安に思っていたのですが、実際に経験してみても、もちろんもう少し学びたいと思った科もありましたが、短期間で複数の診療科を回することで幅広い知識を身につけることができたと思います。数ヶ月月方方比べると浅い知識ではありますが、その分短期間で吸収しようと努力できたと思いますし、救急外来で診療する際の糧になっていると感じています。

また、物足りないのであれば、2年次に再度選択することも可能です。

どの診療科も上級医の先生方の指導は熱く、大変勉強になりましたが、私が選択した診療科で申し上げると、特に感染症内科・肝胆膵内科・形成外科はおすすめです。

- 感染症内科: 感染経路や患者背景を考慮しつつ、抗菌薬の適正使用に関して論理的に学ぶことができます。知らない知識がたくさんあり、研修中は大変ですが、研修前後で大きく成長したと感ずることができます。何科に進んでも活かせる知識です。
- 肝胆膵内科: 病棟診療も行いつつ、午前中は腹部エコー検査を実践的に学ぶことができます。まずは1人で検査を行い、その後上級医に再度評価をしてもらいfeedbackしていただけます。救急外来では侵襲度の低いエコー検査は、必須な手技です。
- 形成外科: 縫合の基本的なやり方や学び、また熟傷や糖尿病性足壊疽、蜂窩織炎など救急外来でよく目にする疾患の対応に強くなることができます。

その他の特徴として、夜間・祝日の総合当直があります。こちらは他の研修医の先生方もおすすめしていますので、割愛させていただきます。

また、研修医だけの医局があり、電子カルテ用パソコンも1人1台あります。医局には勉強できる本もたくさんありますし、もっと専門的な雑誌は図書室にも用意されており、自己研鑽を積むこともできます。研修棟3階にはシミュレータ室もあり、気管挿管や中心静脈カテーテル挿入、腹腔鏡手術など、手技の練習も可能です。

このように研修環境としては最高の場所であると感じています。好生館で2年間学ぶことができ本当によかったと感じています。

拙い文章ではございますが、少しでも好生館の魅力が伝わると幸いです。

最後まで読んでいただきありがとうございました。

ホームページの人気コーナー 研修医ブログ（旧 研修体験記）

▶ 2021年12月 小金丸 三璃

基幹型プログラム2年目の小金丸 三璃と申します。

この文章を読んでくださる方は医学生の方が多いと思いますので、マッチングの話から書き始めてみようと思います。当時、面接会場で好生館を志望した理由を聞かれたときは、至極それらしい回答を準備していたのですが、実際のところ私が好生館に惹かれたきっかけは、学生の頃お世話になっていた先輩から「好生館は楽しかったよ」と聞いたその一言でした。働いての楽しみにしてすていい！なんとも短絡的な理由で好生館を第一志望にし、気づけば約2年の月日が経ちましたが、あのときの選択は間違っていなかったなと思います。

私は好生館でしか働いていないので他の病院との違いはよく分かりませんが、2年間を振り返り好生館で良かったと思うことを、少しだけ紹介させていただきます。



まず、好生館で研修医として働く上でもと感じているのは、コメディカルスタッフの皆さんの温かさです。学生時代はあまり関わることのない存在だと思いましたが、働き始めるとその存在の大きさに気づくと思います。看護師さん、薬剤師さん、放射線技師さん、検査技師さん、栄養士さん、クラーク・事務職員さん、それぞれが専門職でその道のプロであり、大学の講義や医師国試では勉強したこともない知識を多く学ばせて頂きました。病棟業務や総合当直において、医師という役割のために指示を出す立場に立つことも多くありますが、研修医は圧倒的に経験が少ないので判断に悩むときもあります。そういった場面でコメディカルの皆さんの意見を頂くことで、診療がスムーズに進む場面を多く経験しました。

診療での関わりだけではなく、深夜の救急外来で看護師さんや他愛もないおしゃべりをしたり、忙しい科を回っているときは事務の方に差し入れを頂いたり、コメディカルスタッフの皆さんとの距離が近く、温かく見守ってくださる環境は好生館の特徴かなと思います。特に2年間同じ病院で研修していると、顔見知りのスタッフさんも増え、より近い距離で関わることも多くなりました。コミュニケーションをとりやすいスタッフさんが増えるほど、純粋にどんな場面でも働きやすくなるので、その点は基幹型の強みだと思います。

診療での関わりだけではなく、深夜の救急外来で看護師さんや他愛もないおしゃべりをしたり、忙しい科を回っているときは事務の方に差し入れを頂いたり、コメディカルスタッフの皆さんとの距離が近く、温かく見守ってくださる環境は好生館の特徴かなと思います。特に2年間同じ病院で研修していると、顔見知りのスタッフさんも増え、より近い距離で関わることも多くなりました。コミュニケーションをとりやすいスタッフさんが増えるほど、純粋にどんな場面でも働きやすくなるので、その点は基幹型の強みだと思います。

また、好生館の特徴として時間外のWalk in外来を研修医が担当していることや、上級医の人数が少ない診療科もあることから、研修医が診療の一端を担って頂くことも多い様に感じます。2年目になってやどですが、患者さんの病態を把握するだけでなく、自分でアセスメントして治療方針を考えるまでの思考回路が身につきようになり、上級医の先生方が意見を聞いてくださる機会も多くなってきました。自分で方針を考える過程でこそコメディカルスタッフの皆さんの意見や知識が大活躍しますし、考えたプランを上級医に相談し、それでいこうと言って頂いたときは、自分も診療の一部に関わっていると感じとても嬉しくなります。研修医の役割もしっかり与えてくださる病院全体の雰囲気や環境には、心から有り難く感じています。

徒然にたくさん書きましたが、好生館での研修医生活をまとめると、2年前に薦めてくださった先輩と同じく「楽しかった」の一言に尽きます。優しく丁寧に指導して下さる先生方、明るく笑顔で支えてくださるコメディカルスタッフの皆さん、そして困ったときはいつも助けてくれる頼もしい同期に囲まれて、充実した2年間を送ることができました。この場をお借りして、関わってくださった皆様へ心より感謝申し上げます。



▶ 2021年12月 小金丸 三璃

▶ 2021年12月 谷口 弦太郎

▶ 2021年12月 森田 将平

▶ 2021年11月 永島 瑛帆

▶ 2021年11月 黒岩 慶成

▶ 2021年10月 穴井 智



「好生館での研修を振り返って」

好生館で働き始めてから1年半が経ちました。勤務初日、第1希望であった好生館で働けることをとても嬉しく思っていました。COVID-19のパンデミックと共に初期研修が始まり、不安でいっぱいだったのを覚えています。今もまだまだ未熟ではありますが、来年以降の進路も決まり、後期研修に向けて勉強の日々を送っている所です。

まだまだ先だと思っていたのですが、自分もとうとうこのブログを書く順番が回ってきました。これを読んでいるのは研修先を選っている医学生の方がほとんどだと思いますので、その方々の参考になれば幸いです。以下、好生館の主な特徴を雑記します。

- ほぼ全ての診療科があり、好きな期間、研修することができます。精神科は入院が無いため、外病院(肥前精神医療センターなど)です。
- 内科6ヶ月、外科1〜2ヶ月、救急科3ヶ月、小児科・産婦人科・精神科・地域医療が各1ヶ月に加え、麻酔科2ヶ月必須です。そのため他病院と比べると自由期間は少なめかも。
- 「ハイパー」〜「ハイボ」で言うと、「ハイブ」。科によっては「ハイビー」。
- 総合当直は、初期臨床研修医が主役。最初は怖かったですが、徐々に出来るが増えてくると楽しいです。診断や処置で困ったらいつでも上の先生に相談できます。看護師さんや放射線技師さんも心強い存在です。
- 夜の当直は深夜、深夜の二交代制。深夜当直明けは午前中で帰れます！
- 研修医専用の医局があり、一人につき一台のデスクと電子カルテ用のPCが確保されています。仕事でのQOLが全然違うし、仲間が常に周りにいてくれます。
- 研修医勉強会が月に2回くらいあります。お薬説明会(お弁当あり)+研修医の症例発表等+上の先生の講義の3本立て(計1〜2時間位)。とても勉強になります。
- 基幹型でも短期間ですが大病院に研修に行けます。入局予定先を回ったのも大事です。
- 給料は、そこそこ良いです。人によるかと思いますが(笑)、使い切るとはほとんどありません。
- 宿舎が綺麗、安い、1DK。医局と同じ建物の中にあるので通勤・帰宅は自由自在です(笑)。

ここで伝えられるのは、あくまでも全体の一部分です。この文章を読んで少しでも好生館に興味を持った方は是非とも見学に来て、研修医の生の声を聞き、雰囲気を感じて頂けたら嬉しいです。

研修先を選ぶ上で重要なのは、選択肢を狭めないことだと思います。様々な病院を見ていろんな人の話を聞いて、自分に合った病院を見つけてください。応援しています。

最後まで読んで頂き、ありがとうございました。



基幹型プログラム研修医2年目の馬場 楓です。

早いもので、2年間の研修医生活も残り1ヶ月を切りました。私は春から外科に進みますが、外科志望の人にとっても、好生館はかなり魅力的な研修病院だったと思います。このブログを見てくれている人の中には、外科系を考えている人はいないでしょうか。せつかくなので私からは、外科志望自慢での好生館の魅力も少しだけ紹介させていただければと思います。

■経験できる手技が多い

好生館の魅力は様々な手技を経験できることだと思います。先生方はみな指導熱心で、研修医に何かさせてあげたいという気持ちも強く、採血やルートはもちろんのこと、CV、胸腔・腹腔穿刺、気管切開など、先生方の十分な指導の下で様々な手技をさせてもらえる機会も多くありました。1診療科1,2人ずつで回るため、症例の取り合いにもなりません。そして、なにより研修医が執刀をさせてもらえる機会があるのが一番の魅力ではないでしょうか。やはり助手で手術に入るとは執刀医として入るとは大きく差があり、責任も伴う分手術手順や術中の注意点など、より手術に対する意識がより深まります。もちろん術中は上級医の手厚いサポートがあるので、安心して手術に臨めます。

■多くの科をローテートできる、ローテを自由に組める

研修必須項目として、内科6ヶ月、救急2ヶ月、小児・産婦・精神・外科・地域の計13ヶ月は義務化されており、その他感染症やICU、放射線科といった臨床に必要な科も回るとなると、残り少ない期間で外科系進路選択のためのローテを組まなければなりません。外科といえど内科的基礎疾患をもつ患者も多く、基礎的な内科知識も必要となるためある程度内科も回っておきたいと考えていました。好生館はほとんどが各科1ヶ月ずつで選択できるので、必須の内科6ヶ月あればひととおり網羅できました。残り期間で外科も複数選択でき、十分回った上で進路選択ができたのは、とてもよかったと思っています。好生館は3次救急の大きい病院であり、標準科もほぼそろっているため、選択の幅が広いことも魅力的です。また、2年目ではローテを自分で組めるので、進路選択のためのローテを組むことができます。

まだまだこれはほんの一部に過ぎませんが、他の研修医がたくさん紹介してくれているので割愛させていただきます。他にも文章では書ききれない良さももっともたくさんあります。

まずはぜひ一度、見学に来てみてください。お待ちしております！



初期臨床研修医2年目の谷口 弦太郎と申します。大学は久留米大学でしたが、もともと佐賀県出身だったので、地元での研修生活も視野に入れ6年生の時に病院を探していたところ、好生館に辿り着きました。

好生館での2年間に個人的には非常に満足しております。充実した研修生活を送れましたし、自信を持って次のステージに進むことができます。ここでは好生館に興味のある医学生に向けて、僕自身が2年間の研修で感じたことを記載したいと思います。

【教育体制について】

僕はただ指示待ちの研修をするのではなく「参加する研修」をしたいと考えており、上級医の後ろについて行くだけの研修生活だけは送りたいと思っておりました。好生館での研修は、初期研修医でありながらかなり任せてもらえる部分が多いため、大いにやりがいを持って研修することができます。他病院で研修している大学の同期と話しても「そんな事までさせてもらえるの？」と聞かれることも多いです。外科手術では執刀医として携わらせてもらえたり、内科でも後期レジデントの先生でないと経験させてもらえないような手技まで経験させてもらえたりしました。

任せてもらえるといえ十分バックアップ体制のもとでのことですので、自分だけで判断するのが困難と感じた場合にはすぐに相談できる環境にあります。そうやってたくさんの検査手技や治療を経験させてもらい最終線で活躍させてもらえるため、大いにやりがいを感じることができます。もっとも出て来ようになりたという意欲をかき立てられるため、自然と教科書を開き勉強している自分があります。

好生館の研修棟には教育センター、シミュレーター室が備わっており、いつでも手技の練習をすることができます。具体的にはエコーガイド下CVカテーテル挿入や気管挿管などです。そのような研修修了までに身につけておきたいけれどもなかなかチャンスが回ってこないような手技に関しても、自然と身体が動くまで練習することができます。

令和3年度は力作揃いです！

また2週に1回、研修医勉強会が開催されており、日頃指導して下さっている先生方にレクチャーしていただけます。日頃の業務に追われて整理する間もなく日々あつまり詰め込んだ知識を、レクチャーを受講することで整理することができます。また研修医同士で教え合う機会もあり、同じ目線で気になっていることを同じレベルで教え合うため、ちょうど自分が知りたかったことをちょうど良いレベルで学ぶことができ、着実に知識が増えていきます。

【総合当直について】

総合当直も好生館ならではの特色があります。Walk-inで時間外に受診される患者さんを基本的には研修医が first touch します。はじめは見習い期間がありますが、1年目の4月下旬あたりからは実際に自分で診察する機会が回ってきます。どうしても日頃の病棟業務だと上級医が手を出してくる余地がありますが、総合当直では基本的には研修医1年目と2年目だけで協力して診療しなければなりません。つい1ヶ月前まで学生だった自分たちが突然そういう現場に出て検査のオーダーを出したり、処置を施したり、また必要に応じてコンサルトをしたりと、何をすべきか判断しなければなりません。ものすごく緊張します。しかし緊張感が高まる環境に身を置くことで、度胸が付きましますし、何と言っても自力で考える癖が付きまします。また足りない知識が明確になり、復習すべきポイントがはっきりします。

総合当直の頻度としては月に4〜5回、つまり週に1回のペースです。Walk-inで来る患者さんは軽症のことがほとんどですが、中には地震症例ともなりうよう方も来院されます。具体的には敗血症性ショックや重症肺炎、腸管穿孔、Wallenberg症候群など、頻度は高くはないけれど重症といった患者さんが救急車でなく歩いてやってきます。1ヶ月で1人くらいは遭遇しているような気がします。そのくらいの頻度で経験を積んでいくことで、だんだん肌感覚で「なんかおかしいな」と感じられるようになります。もちろん根拠を持って「重症です。入院適応です」と言えることも大事ですが、「なんか変だな、怖そうにないな」という感覚を養うことも同じくらい大事だと思います。育ってばかりですが、もちろん common disease がほとんどですので安心して下さい。

好生館の総合当直のもう1つの特徴は、夜間当直を前半と後半に分けている点です。23時を境に前半から後半へ交代します。前半に当たった日はカルテ記載が終われば11時までのため、睡眠時間を確保できます。また、後半に当たった日は翌日半休をいただけるようになっているので、身体を休めることができます。ただただ診療に追われるだけでなく自分の時間を十分に確保できるため、身体を休ませたり、意欲があれば復習したりできます。総合当直で経験した事例を消化不良にせずに済むのは、個人的にはかなり良かったと感じています。研修医にとっては非常にありがたい制度ですし、九州内でもかなり珍しいのではないのでしょうか。少なくとも僕が学生だった頃に見学に行った病院でそのような制度があったのは2つしかありませんでした。

【施設について】

初期臨床研修医だけの医局があり、かつ研修医1人1人に1台ずつPC(電子カルテ)が備わっている病院は稀ですが、好生館ではそれらが備わっています。働き始めるまで気づきませんでした。1人1台ずつ電子カルテが備わっている環境はかなり恵まれています。好生館は病床数に対し研修医の数が比較的多いですが、それでも電子カルテの取り合いにならず自分のタイミングで仕事を進めることができるので、余計なストレスなく仕事ができます。

また、研修棟の4階と5階が初期臨床研修医の寮になっており、病院の敷地内に住むことも驚きましたが、職場と自宅が一続きになっているという環境にかなり驚きました。オンオフやメリハリがつかない不安でしたが、これが逆に良かったです。例えば17時15分に仕事が終わるとすぐに自宅に戻り、17時20分には病院を出てご飯を食べに行ったり飲みに行ったりすることもできます。逆に遅く仕事が終わったとしても仲間同士の部屋を行き来し愚痴を話し合うこともできます。嫌なことがあったり落ち込んだりした日でも1人で溜め込まずに済むので、翌日気持ちよく出勤することができます。

以上になります。

ハイパーな診療科で忙しく活躍したいと考えている人、じっくり考え最善の一手を考えるのが好きな人、それぞれ目指す理想の医師像は異なっていると思います。僕は欲張りなので、どちらもある程度身につけたいと考え、そういう視点で病院を探しました。結果、3次医療機関で大病院に劣らないくらい幅広く症例を経験でき、かつ市中病院で研修医を執刀として扱ってくれる当院を選びました。よく「2年間の初期研修をここで受けるから、その先が大きく左右される」と言われますが、良いスタートを切れたと確信しております。

繰り返しになりますが、好生館の研修では、知識も学ぶことができ、同時に技術も身につけることができます。"体力に自信はないけど臨床現場でいろんな症例を幅広く経験したい"、"引っ込み思案だから手技の取り合いにならない病院で働きたい"、"初期研修の段階から急患対応や重症管理を勉強したい"など、どんな角度からでもマッチングと考えています。もちろん"頭も腕も鍛えたい"と考えている欲張りな方も大歓迎です。

是非一度、見学にいらしてください。素晴らしい初期研修生活を保証します。

乱文で申し訳ありませんが、少しでもお役に立てれば幸いです。最後まで読んでくださりありがとうございました。

令和4年度版も掲載中です！

2022年度



- ▶ 2023年01月 大川 惟
- ▶ 2023年01月 新藤 優里
- ▶ 2023年01月 古川 くるみ
- ▶ 2023年01月 平野 貴之
- ▶ 2022年12月 三根 大樹
- ▶ 2022年12月 加峯 圭佑
- ▶ 2022年12月 池邊 結

池邊 結

2022年12月

トップページ > 初期臨床研修医 > 研修医ブログ > 池邊 結



基幹型プログラム研修医2年の池邊 結です。

気づけば2年間の研修生活も終わりに近づいています。私は春から整形外科に進みますが、元々はなんとなく外科系かなという感覚のみで、内科を含めどこに進むか迷っていました。そんな気にならなかつたかと思えば、なんと好生館はとても魅力的な病院だと思います。その魅力を少しでも紹介させていただければと思います。

■多くの科をローテートできる

研修医必須科目として内科6ヶ月間ありますが、好生館は1ヶ月ごとに6個の診療科を回ることができ、私は外科系を主に考えていましたが、実際に働いたら考えが変わるかもしれないと思っており、多くの内科を回り、科の雰囲気や大まかにどんなことをしているのかを備えながら体験できたことは、科の選択の上

でもとてもありがたかったです。

最終的に整形外科を選択しましたが、外科系を選択しても、多くの内科を回れたことは、実際に診療を行い、特に入院患者に携わる際に必要な学びだったと思います。

■2年目は研修する科の回る時期も指定できる

さて、私は研修1年目が終わった段階で、マイナー外科に進むことを決めました。シーリングの間隔もあり、2年目の7月、遅くとも8月までに気になる科は回りたかった。好生館基幹型2年目は回りたい時期まで希望を出すことができます。他の人と時期が被らない限り、大抵は希望が通るので、悩んでいる科はすべて2年目前半で回り、心残りなく科を決めることができました。

シーリングにより、科を決めるまでの期間が短くなっている最近では、多くの科で迷っている方は、すべての悩む科を回り切らずに決めなければならないこともあります。好生館の制度であれば、そのような状態にならずに思う存分迷えると思うので、とても魅力的な制度だと思います。

好生館の魅力の中のほんの一部分の紹介となりましたが、他の研修医も色々紹介してくれているので割愛させていただきます。

文章だけでは魅力は伝えきれないので、是非一度、見学に来てみてください、お待ちしております！

加峯 圭佑

2023年1月

トップページ > 初期臨床研修医 > 研修医ブログ > 加峯 圭佑



基幹型研修医2年目の加峯 圭佑です。

約2年前、僕は好生館のホームページで研修医の先輩方のブログを見て好生館に憧れ、時が経ち現在のブログを書かせていただいていること何かに感慨深いものを感じます。私は正直、佐賀県に縁もゆかりもなかったのですが、基幹型研修医として採用していただきました。このような素晴らしい伝統ある病院の研修医として採用していただき、本当に感謝しています。

★僕が好生館を研修先として選んだ理由が「人」であったので、その点を話させて下さい。他の良さもたくさんあるのですが、同期に譲りたいと思います。

当初の僕は同大学の友達1人以外は周りに知っている友達もおらず不安を抱え、しかも「ルートって何？、何のためにどうやってとるの？」と初歩的な事も分からない研修医でした。毎日汗だくで日々の仕事に食らい付いていくので精一杯でした。

しかし、何故今まで突っ走ることができたのか？、紛れもなく「人」のおかげです。

僕は好生館の研修で決して忘れられない出来事がたくさんあります。初めての総合当直、4月に初めて主体的に脳出血の患者さんを診療した時、小児科で最後に一人の患者さんの問診診察から検査オーダー、採血点滴から入院までの全ての診療を担当させていただきましたこと、CVを初めて挿入した時、救急科での初日・緊張と不安で眠れなかった夜勤の日々、初めてラパコレを執刀した日・最終日、初めて胸腔ドレーンを入れた時、初めて動脈穿刺した時・心カテを挿した時、初めて麻酔をかけた日・難しい症例の麻酔など、こまめに留めますが、そのどのイベントにも背後には必ず母親・父親のように見守ってくださる指導医の先生の方がいました。

ある例を挙げさせていただきます。

僕が鮮明に覚えているのはCV挿入の際、救急の上級医の先生は一生懸命になると周りが見えなくなってしまう自分の性格を把握して、自分が下手でうまくいかない場面なのに、「加峯ちゃんごめんね、私が上手にフォローできなかった。本当にごめんね、私が頑張るからね」と言われた時には、先生の母親のような優しさを感じ胸が熱くなったのを覚えています。

他にも麻酔科研修でマスク換気が上手くいかなかった時期に遭い、悩んでいる姿のみ指導医の先生が「加峯ちゃん、日々を淡々と過ごすよりもそうやって悩む事自体が素晴らしいことなんだよ」と一緒に解決策を考えてくれて、初めてのコツを掴むことができました。先生方にとって何気ない一言かもしれないですが、一生懸命だった僕にとってその一言でどれだけ救われたか。おかげで今まで勉強を楽しく一生懸命頑張ってきました。

各診療科そのような先生ばかりです、上記のようなエピソードは他にもたくさんあります。本当に各科の先生方にはこんな僕と仲良くしてください、また可愛ってくださり、最後まで手厚いご指導をしてくださったことをここで感謝申し上げます。

もちろん、上の先生ばかりではありません。患部をたくさん見てくれた明るく優しいやんちゃな同期、1個上の先輩では医局の隣のデスクでたくさん話を聞いてくれた仲良くしてくれた優しい先輩、ある先輩は上級医の先生のモノマネをしてたくさん笑わせてくれたり、でも勉強の質問すると必ず参考文献までコピーしてくれて丁寧に教えてくれて、初めての手術の前日には一緒にシミュレーションしてくれたり、当日手術が成功した時には一緒に喜んでくれたり、わざわざ休日に心エコーの当て方を2人で病棟・ICUにまで一緒に行き教えてくれた先輩がいました。それは、僕にとってとても大切な思い出であり、そんな先輩の姿・人柄に憧れて道を定めるきっかけにもなりました。間違いなく、かけがえのない「人」に出会うことができた研修でした。

辛いこともありましたが、自分の無知さでwalk in症例がうまくいかなかった時、徹夜でたくさん勉強してカンファに挑んだのに、ボロボロにされ悔しくて涙の日もありました。カンファ中演習がしなやかにパソンの方をずっと向いていたのを覚えています(笑)。急変した患者さんに対して何もできず立ち止まった自分の無力さに悔しくて部屋で泣いた日もあります。しかし、失敗したからこそ学べたことがたくさんあり、失敗が一番自分の成長に繋がっていました。だからこそ、自分なりに考え行動することが大切だと気付きました。他にも先生方に本気で怒られたことはあります。しかしそこには必ず「愛」がありました。

そう振り返ると、僕は多くの人に愛のあるご指導いただき恵まれた環境にいたのだと感じます。

今年は可愛い後輩が入ってきました。僕はお世話になった指導医の先生方・先輩方みなになれているだろうかと、後輩を守る盾となれているだろうかと、ふと思いがちあります。せめて後輩たちの心の拠り所になれたいと思います。

長くなりましたが、好生館で見てきた先生方の「指導熱心かつ謙虚で優しく情熱的」な医師になれるよう、まだまだ道のりは遠いですが、今後も熱く向上心を持って精進して参ります。このブログを見ている方は是非、好生館の研修を考えてみて下さい。特に僕みたいに「人」との出会いを大切にしている方は、絶対に後悔はしません。僕は2年間研修(基幹型)をお勧めします、必ずかけがえのない先輩、同期、後輩、恩師に出会えますよ!!!

乱文長文失礼いたします、ご覧いただきありがとうございます。どうか皆さんの研修がよりよいものになりますように。

【 好生館のERの現況調査 】

- 平成30年の全ER受診患者12,399名のうち、walk-in患者は 9,364名であった。そのうち、1,113名 (11.9%)が入院となったが 3次救急 (救命・ICU入院)は、188名 (2.01%)だった。
- 令和2年は walk-in患者のうちの 2.40%、令和3年は 2.62%、令和4年は 3.01% が 3次急患であり、walk-in患者の40名に1名は重症患者が潜んでいた(統計の約8倍)。
- 研修医の経験症例は バラツキがあるため、研修医間で 知識の共有の場 が必要だろう。

好生館での研修 ⇒ レジデント向け勉強会

- 毎月2回；臨床研修医向け勉強会を開催
- 毎月第2木曜 & 第4木曜 18:30～20:00
- **研修医による症例発表“ERで苦慮した症例”**
⇒ 2名が発表；各人10分 ⇒ 学会発表訓練
- 臨床講師による講義・レクチャー
⇒ 救命救急講義シリーズ(10回／年)
救命救急実技シリーズ(4回／年)

ウエット
ラボ含む

+ ショック、呼吸不全、整形外科、多発外傷、
画像診断、PoCUS、感染制御、産科救急, etc.

レジデント勉強会の遠景(毎月第2,4,(5)木曜日)

2021年度
研修医による
ER症例の発表
(苦勞した症例)

7月からは 毎週水曜日、
ERモーニング・ケース
カンファランスを開始!

2021年度
院内講師による
教育用レクチャー
(実践的内容)
(実習は多めに)



レジデント勉強会 ⇒ ハンズ・オン セミナー



実技: ウェット・ラボ (毎年7月・11月)

形成外科・整形外科スタッフによる 無菌豚皮を用いた縫合演習



動画